

【ねがいましては】

平成27年8月25日

KYOWA SCHOOL

第298号

「自然」

今年のCAMPは日程が理想的に行かず、今までにない少人数のものになりました。それでもこの4泊5日には思いもよらない目を細める光景がありました。

学会での発表日程が、いつも行っているCAMPの日程と重なってしまうため、やむなく学会終了、即CAMPという過密スケジュールになってしまいました。例年ですと、CAMP前日は説明会終了後、準備のための買い出しや用品の荷造りなど、スタッフさんたちが手伝ってくれる日になっていたのですが、それも叶わず……。前日準備など全く予定もしていなかったのですが、私が留守の間にスタッフさんたちが機転を利かせ、いろいろと準備をしてくれました。相当私が疲れているのだらうと思ったのか、出来上がった荷物を車の中へと収めてくれる大サービスもありました。これには感謝です。しかし出発当日朝、積み直しはしましたが……。

そんなこんなで、スタッフさんたちの温かい気配りによって無事出発することができました。

到着するや、とんでもない光景が……。CAMP場の一番の力持ちであるオーナーの息子さんが松葉杖姿で歩いているではありませんか。今年3月、CAMP場内の修理のため屋根に上っていたところ、足を滑らせ転落、落ちたところが運悪く石の上だったため、足首を複雑骨折されたとのこと。痛かったです。全治約1年だそうです。

ここ最近『働く』をテーマに行ってきた私たちのCAMPでしたが、今年は少人数、思うようなお手伝いはできないのかなと思いながら涼しい空気を堪能します。

今年のスタッフさんたちは、男子高校生が2人、女子高校生が1人、目的は勉強なのだそうで、その前向きな姿が果たして見られるかどうか……。残りは皆小学生、しかもすべて女の子。

で、事件は2日目の夜起こりました。

その日からやってきた団体さんたちがいます。そのほとんどが小学生たちのようで、面倒は大学生と思われる方々。大型バス1台でやってきましたので、およその人数はご想像いただけるとと思います。すぐ隣のバンガローから約10のバンガローで生活するようです。夕食も終わり、やがて就寝の時間。どの団体でもそうだと思いますが、念入りのスケジュールが組まれ、時間通りにそれは行われていきます。9時半、その団体さんのバンガローは明かりが消え、静まっています。そこへそっとやってきた団体さんたちのスタッフの方、そっとバンガローの玄関ドアの所で聞き耳を聞かせています。私はその光景を見ながら寂しさを感じました。「スタッフさんたちは子どもたちを疑っている。」

普段から、【ねがいましては】でもお話していますように、人と人の中には『信頼』が必要だと……。

ドアの外でそっと立っている学生の方は、どう思いながら立っているのでしょうか。「誰が起きているのかしっかり聞いていますからね。」まるで盗聴しているかのようなその光景は、わたしにはどうしてもグレーな気持ちにさせてしまうものでした。

と、そこへ登ってきました。松葉づえ姿の息子さんがCAMP場専用の共同トイレの掃除にやってきたのです。男女合わせて20人が一度に用を足せることができるほどの大きなトイレです。どんなに怪我をしても、やらねばならないことはあります。すかさず私は声を上げました。「ねえみんなでSさんのトイレ掃除を手伝ってあげなよ。」「はあーい。」パタパタパタパタ……。その足音はすべて小学生たちです。もちろんそばにいた高校生たちも参加します。

我が家全員がトイレ掃除の始まりです。いやいややっているのではない、にぎやかな声がトイレから響いてきます。

おそらく自宅ではほとんどやったことの無いトイレ掃除……。

先ほどの団体さんたちの就寝の光景が左側で起こっていたのに対し、みんなでトイレ掃除をやっている光景が右側で起こっています。

このコントラスト、是非お父さんやお母さん方にご覧いただきたかったのです。

片方では、決まったことを守らせようとしている光景。

片方では、皆が正しいと思ったことをころから楽しんでいる光景。

その中には人として必要な信頼が宿っています。何の不安もない心のつながりです。子どもたちは、その行為が私の中で感動的な光景として映っていることなど微塵も感じてはいません。つまり褒められようとしてとっている行動ではありません。困った人がいれば助けてあげる。当たり前なことを自然にやっているだけなのです。

決まりを押し付け守らせようとする。今起こっている状況を自然体で受けとめ自然に行動する。

今、学校で行われている生活は前者なのでしょうか、それとも後者。集団生活を行ううえでどうしても必要なことは100%承知しているのですが、ルールを守らせようとするこの子どもたちへの影響を思うと、違和感を覚えます。それからの小学生たちは、CAMP場のスタッフになり切りたいのか、道具の貸出場所へ陣取り、「いらっしやいませ」などと声を上げていました。働きたいのですね。

どんな小さな子でも、人の役に立ちたいと思うのはうれしいことのように。そんな場が日常あったらいいなと感じました。ありがとね。